

検察庁法案 今国会成立断念

民主主義の底力示した 世論が政権追い込む

日本共産党・藤野氏の追及に大きな反響

政府・与党は十八日、特定の検察幹部の定年を内閣の意向で特例的に延長することを可能にする検察庁法改定案の今国会での採決を断念しました。「改定案」に対してインターネット上で急速に広がった反対の世論と野党の論戦が、今国会での成立断念に追い込みました。

逃げ切りを許さず、「内閣が定める場合に」検事長などの定年延長や再延長ができるとする規定の削除、廃案にするたたかいを発展させましょう。



質問する藤野保史議員（衆院比例北陸信越） 十五日、衆院内閣委

憲法の基本原理である三権分立を脅かす

ネットで起こった大きなうねりが、テレビや大きな新聞に広がり、日弁連が声をあげ、検察OB、特捜OBの方々も声をあげるなかで、今国会成立を阻んだのは、大きな画期的成果であり、日本の民主主義が底力を示しました。

15日は質疑を中継する衆議院のホームページにアクセスが集中し、一時、閲覧が不可能になるほどでした。

国会の外では、「検察庁法ぜったい反対」「強行採決ぜったい反対」のシュプレヒコールが委員会室に響きました。

衆院比例北陸信越ブロック選出の日本共産党・藤野保史議員が質問に立ちました。藤野議員は、「検察官の独立性を害し、憲法の基本原理である三権分立を脅かすものだ」と批判し、「新型コロナウイルスの収束のために集中すべき時期に、火事場泥棒的に改定案をゴリ押しすることは許されない」と述べ、撤回を求めました。

藤野議員の質問に、映画評論家の町山智浩さんがツイッターで、「共産党藤野議員による森法務大臣への質問は、この改正の危険性を誰でもわかりやすく解説しているのでぜひ見てください」と動画を紹介しました。

「ネット中継を見てました。藤野さんの質疑とデモの皆さんのコールが重なり一緒に闘ってるんだと感動しました」「ツイッターでも藤野さん頑張れ、という声が多かったです」など、大きな反響がありました。

藤野議員のコメント

検察庁法改定案先送りは世論の力です。

15日の質問前、私は「1000万の声を背に」質問するとツイートしました。実際に委員会室には皆さんの声が鳴り響き、まさに“声に背中を押されながら”質問できました。こんな経験は初めてです。次は定年延長特例と閣議決定の撤回へ。頑張ります。